| | 都市情報学部都市情報学科 |
|---|---|
| DP | 都市情報学科は、本学の立学の精神と、本学科人材養成目的「サービスサイエンスの観点から、都市に関する総合的知識とバランス感覚を併せ持ち、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題を分析し、解決する人材の養成」に基づき、次の資質・能力を身につけた学生に学士（都市情報学）の学位を授与します。<br><br>①幅広い教養と語学力を身につけ、人間・文化・社会・自然・環境・情報・健康などの視点から社会の諸課題に取り組み、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。<br><br>②サービスサイエンスの観点から、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題を分析し、解決するためにアナライジング（情報を収集・整理・分析すること）、プランニング（計画を立案・設計すること）、プレゼンテーション（成果を発表すること）の知識・能力を修得している。<br><br>③都市に関する総合的知識を主体的に学び続け、バランス感覚を養いつつ、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。 |
| CP | 都市情報学科は、本学科の教育目標を達成し、学位授与方針に示す資質・能力を身につけさせるため、教養教育部門、専門基礎部門、専門部門より構成される教育課程を編成し、実施します。いずれの科目群においても一定以上の単位数の修得が義務付けられ、都市情報学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるために、幅広い学修を求めています。<br><br>①教養教育部門は、「人間と文化」、「人間と社会」、「自然と環境」、「言語コミュニケーション」、「情報技術」、「健康とスポーツ科学」、「教養演習」の7科目群から構成され、これらの科目を幅広く履修することにより、さまざまな価値観に触れ、バランス感覚を養い、物事を正しく理解し表現できるようにする。<br><br>②専門教育課程は、専門基礎部門と専門部門より構成され、体系性と順次性を踏まえて科目が開講されている。専門基礎部門は、都市や情報・数理に関連する科目を学び専門科目の基礎知識と基本的技能を修得する部門である。専門部門はさらに「経済・経営」、「財政・行政」、「地域計画」、「開発・環境」、「情報・数理」、およびゼミナールを始めとする「総合科目」の科目群に分けられ、これらの部門内の専門科目を系統的に履修することにより、アナライジング、プランニング、プレゼンテーションの知識と技能を身につけ、まちづくりや組織経営に関するさまざまな課題の分析と解決に活かすことができるようにする。<br><br>③都市情報学科の教育上の特徴として、3・4年次の2年間にわたる必修科目として、少人数教育の場であるゼミナールを設置している。この能動的学修の場を通して、主体的にかつ持続的に探究心を育むことができ、他者との意見交換や相互理解に努めることの重要性を認識できるようにする。<br><br>④学修成果に対する厳格な成績評価と単位認定を行うとともに、クラス担任教員（1・2年次の学生を対象）やゼミナール担当教員（3・4年次の学生を対象）が、学修行動調査やGPA、修得単位数にもとづいた個別指導を行うことにより、個々の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。ゼミナールにおける発表会の実施や優秀卒業論文の表彰による評価を通じて、主体的に学ぶ姿勢やプレゼンテーション能力を身につけることができるようにする。 |
| AP | 都市情報学科は、本学科の教育理念・教育目標を理解し、高等学校等における学習を通して、次のような能力・態度を身につけている人を受入れます。<br><br>①高校までの学習による基礎学力を身につけている。<br><br>②本学科での学修成果をよりよい人間活動の場の創造に向けて活かすという目的意識がある。<br><br>③大学在学中だけでなく、卒業後も社会の中で身の周りに起こる任意の事象に対して問題意識をもち、問題解決のために論理的に思考し粘り強く取り組み続ける意欲がある。 |
| アセスメント・ポリシー | 学科レベル（都市情報学科）では、GPAの数値に加え、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査、学生アンケートにより、ディプロマ・ポリシーの3つの観点から評価する。<br>科目レベルでは、シラバスに記載してある成績評価を厳正に行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。また、ゼミナールにおいては、卒業研究発表会でのプレゼンテーションや卒業論文等の成果から、学修成果の達成状況を評価する。 |